

極早生ストックの施設栽培における作期について

柴田 浩・水越洋三・畠山順三

(秋田県農業試験場)

Cropping Season of Extremely Early Stock
(*Mathiola incana* R. Br.) under StructureHiroshi SHIBATA, Yozō MIZUKOSHI and Junzō HATAKEYAMA
(Akita Agricultural Experiment Station)

ま え が き

本県におけるストック栽培は、極早生種を7～8月に播種し10～11月に採花する作型がとられ、夏ギクの半促成栽培や果菜類の早出し栽培と組合せて施設利用が行われてきた。

最近、年末出しの電照ギク栽培が急激に増加していることから、その後作として有利な種類の導入組合せが求められている。

ストックの極早生種については生態的に作期拡大が可能であるが、前記以外の作型特に電照ギクのあとに組合せることができる作型について本県の気象条件や施設利用面などから明らかにする必要がある。

このため作期による生育・開花、品質等の生態について検討し、引続き目標とする作型の播種期についても試験を行ったのでこの結果を報告する。

試 験 I

1 試験方法

播種期：8月5日から4月6日まで1ヵ月おき9回、供試条件：11月から4月末まで最低温度5℃と10℃の2条件、耕種概要：育苗は無仮植、3～4葉定植、11月以降は最低温度10℃の温室で育苗した。栽植距離：15×10 cm (ベッド幅1 m)、施肥量：(a当り) 基肥：堆肥300 kg, 硫加燐安12号8 kg, 菜種粕5 kg, 追肥：NK化成23号2 kg。

2 結 果

(1) 採花時期

採花期についてみると(図1)、最低温度10℃の加温条件では、8月5日播きが11月中旬、9月8日播きが2月上旬、10月7日播きが3月上旬、11月4日播きが3月下旬～4月上旬、12月6日播きが4月下旬、1月6日播きが4月下旬～5月上旬、2月6日播きが5月中旬、3月6日播きが5月下旬～6月上旬、4月6日播きが6月下旬であり、8月播きに対して、順に75日、40日、25日、25日、5日、15日、15日及び20日程度の遅れであった。

最低温度5℃の加温条件での採花期は、11℃の加温条件

に比べて8月、2月、3月及び4月播きではほとんど差がみられなかったが、その他の播種期では15～40日のおくれとなった。

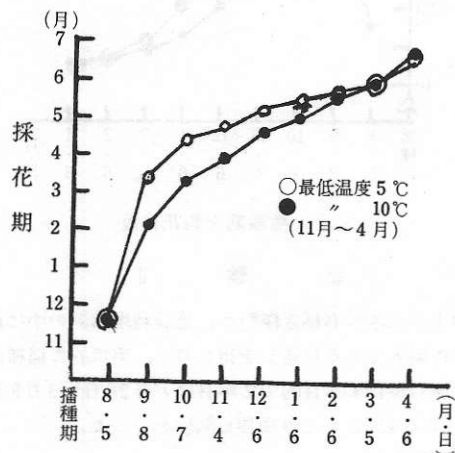


図1 播種期と採花期の関係

(2) 到花日数

定植から採花期までの日数をみると(図2)、9月及び10月播きが最も多く8月播きに比べて最低温度10℃の加温条件で約60日、5℃で90日も多く要した。11月播き以降は、播種期の遅れるにともなって到花日数はやや急激に低下するが、2月播き以降の到花日数は8月播きに比べて15～20日少なかった。

(3) 収穫物

切花長は、いずれも60 cm程度であるが、10月、11月、12月播きが比較的大きく、葉数は11月、12月、1月播きで少なくなるようであった。加温条件との関係では、切花長、葉数とも10℃で勝っていた。

3 要 約

以上のように秋～春まきでも、夏まきに劣らない結果が得られた。ただ定植から採花までの日数が夏播きで60～80日程度なのに対し、9月～12月播きでは100～160日も要し、又、これらの時期に播種されたものの生育期は12, 1, 2月

の厳寒期にあたり暖房費の面から考えても有利とは思われない。

又、4月播きは採花期が6月に入るため花持ちや水あげが悪くなるなどの難点がある。これらを考え合せると1～3月の冬～春播きの作型が実用的とおもわれる。

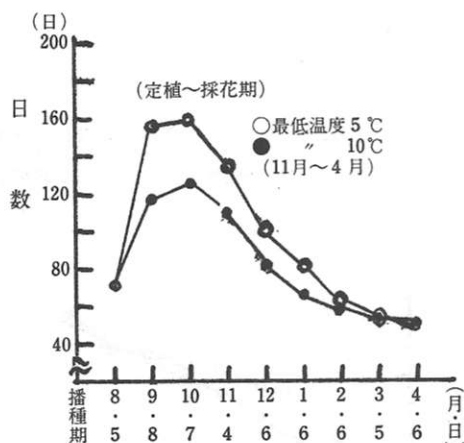


図2 播種期と到花日数

試験 II

試験 I から冬～春播き作型が、施設利用体系の中に比較的容易に導入できる見通しを得たので、実用的な播種時期の幅を明らかにする目的で2年目は1月20日～3月8日まで15日おき4回にわたり播種し試験を行った。

1 試験方法

播種期：1月20日から3月8日まで15日おき4回、供試条件：定植後は4月20日まで最低温度5℃及び10℃の2条件で栽培、この他は試験 I に準じて実施した。

2 結果

(1) 採花時期

最低温度10℃の加温条件では、1月20日播きが5月中旬、2月4日播きが5月下旬、2月19日播きが5月下旬～6月上旬、3月8日播きが6月上旬であり、順に7日程度ずつ遅れた(図3)。

最低温度5℃の加温条件では、順に5月下旬、5月下旬～6月上旬、6月上旬、6月上旬であり、3日程度ずつ遅れた(図3)。

(2) 到花日数

定植から採花までの日数は(図4)、播種期の順に76～85日、69～75日、63～66日、55～57日であった。加温条件による違いをみると、1月20日播きが約10日の差であったものが、播種期が遅れるにしたがって小さくなり、3月8日播きではわずか2日の差であった。

(3) 収穫物

切花長は60～70cmであり、品質は比較的良好であった。

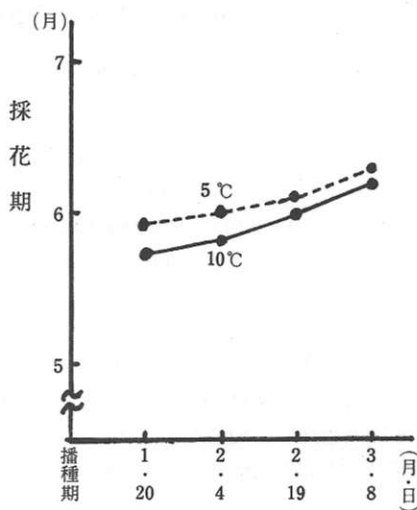


図3 播種期と採花期の関係

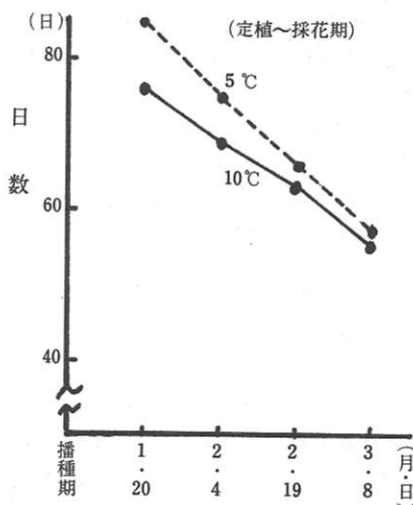


図4 播種期と到花日数

3 要約

以上の結果、6月に入ってから採花は花持ちに難点のあることを考慮すると、冬～春播き栽培の播種期は5月中旬に採花できる1月下旬～2月上旬が実用的な播種時期と思われる。

まとめ

8月から翌年4月まで1ヵ月おきに極早生ストックを播種して、温室内で栽培を行った作期試験の結果から冬～春播き作型の有利性が認められ、その実用的な播種時期は、1月下旬～2月上旬であることが知られた。